

2018年2月8日

経済レポート

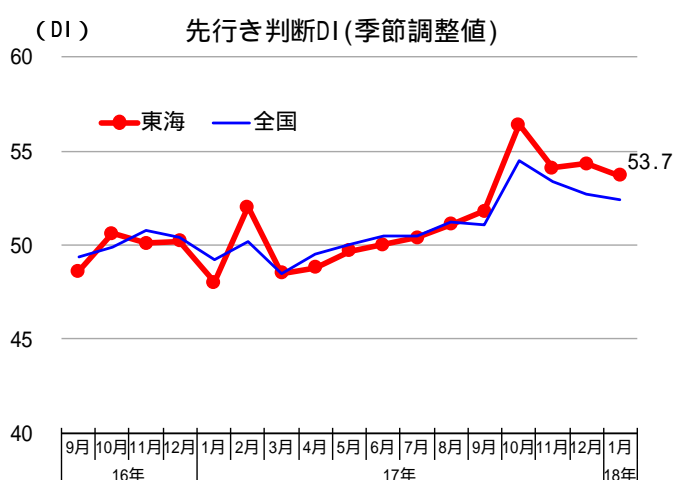
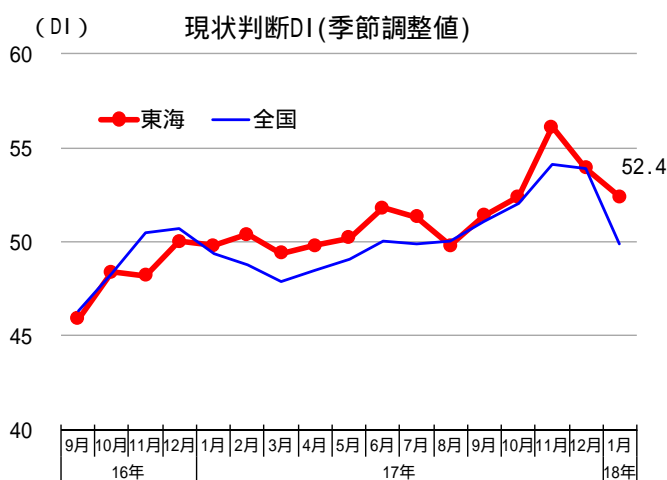
景気ウォッチャー調査(東海地区:2018年1月)

~ 現状判断DIは2ヶ月連続で低下 ~

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

2月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の1月の

現状判断DI(季節調整値)は、前月差 1.5 ポイント低下の 52.4 と 2ヶ月連続で低下した。また、先行き判断DI(季節調整値)は、前月差 0.6 ポイント低下の 53.7 と 2ヶ月ぶりに低下した。



当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

回復が一服している。先行きについては、燃料コストの上昇、人手不足などへの懸念もあるが、春物商戦など季節要因による改善を期待する声が多い

とまとめ、現状については下方修正し、先行きについては判断を据え置いた。

(前月のまとめ)

「回復基調で推移している。先行きについては、物価や燃料コストの上昇、人手不足などへの懸念もあるが、足下の好調さが持続するとの期待が続いている」

内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

天候要因等により一服感がみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、人手不足やコストの上昇に対する懸念もある一方、引き続き受注、設備投資等への期待がみられる

とまとめ、現状については下方修正し、先行きについては判断を据え置いた。

(前月のまとめ)

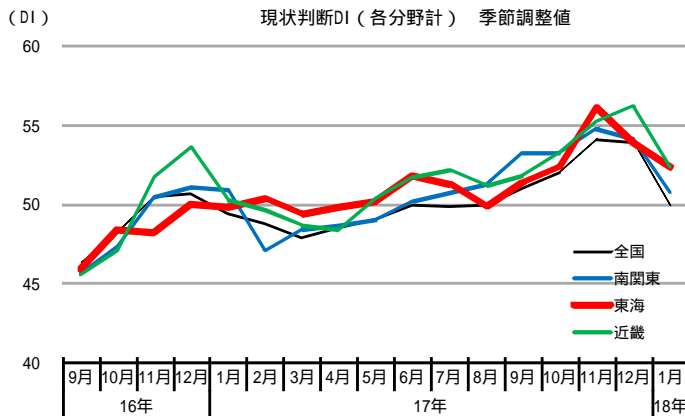
「緩やかに回復している。先行きについては、人手不足やコストの上昇に対する懸念もある一方、引き続き受注、設備投資等への期待がみられる」

1. DIの動向

(1) 季節調整値の動向

景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

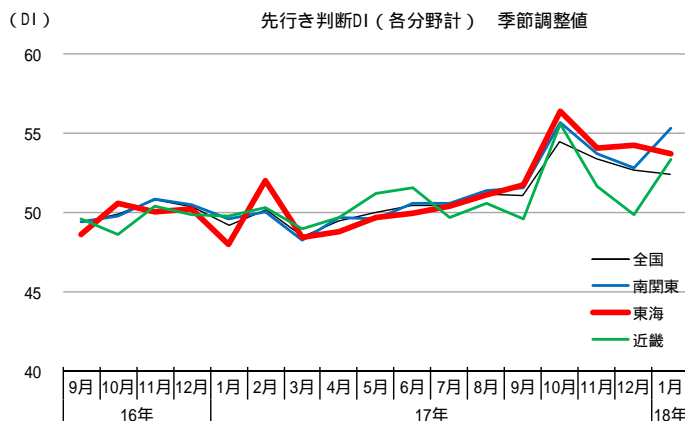
3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DIは、前月差1.5ポイント低下の52.4と2ヶ月連続で低下した。全国より高く、南関東¹よりやや高く、近畿と同水準となった。



		全国	南関東	東海	近畿
16年	9月	46.3	45.6	45.9	45.5
	10月	48.3	47.3	48.4	47.1
	11月	50.5	50.5	48.2	51.7
	12月	50.7	51.1	50.0	53.6
17年	1月	49.4	50.9	49.8	50.3
	2月	48.8	47.1	50.4	49.7
	3月	47.9	48.4	49.4	48.7
	4月	48.5	48.7	49.8	48.4
	5月	49.1	49.0	50.2	50.4
	6月	50.0	50.2	51.8	51.7
	7月	49.9	50.7	51.3	52.2
	8月	50.0	51.3	49.8	51.2
	9月	51.1	53.3	51.4	51.8
	10月	52.0	53.3	52.4	53.3
	11月	54.1	54.8	56.1	55.2
	12月	53.9	54.2	53.9	56.2
18年	1月	49.9	50.7	52.4	52.4

景気の先行き判断(2~3ヶ月先の見通し、方向性)

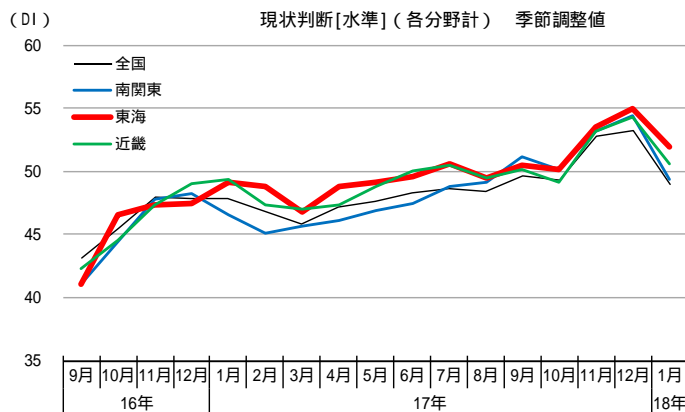
2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DIは、前月差0.6ポイント低下の53.7と2ヶ月ぶりに低下した。全国よりやや高く、南関東よりやや低く、近畿とほぼ同水準となった。



		全国	南関東	東海	近畿
16年	9月	49.4	49.4	48.6	49.6
	10月	49.9	49.8	50.6	48.6
	11月	50.8	50.9	50.1	50.4
	12月	50.4	50.5	50.2	49.9
17年	1月	49.2	49.6	48.0	49.8
	2月	50.2	50.1	52.0	50.3
	3月	48.5	48.3	48.5	49.0
	4月	49.5	49.7	48.8	49.7
	5月	50.0	49.6	49.7	51.2
	6月	50.5	50.6	50.0	51.6
	7月	50.5	50.6	50.4	49.7
	8月	51.2	51.4	51.1	50.6
	9月	51.1	51.6	51.8	49.6
	10月	54.5	55.7	56.4	55.6
	11月	53.4	53.7	54.1	51.7
	12月	52.7	52.8	54.3	49.9
18年	1月	52.4	55.3	53.7	53.4

景気の現状判断(水準)

現在の景気の水準自体に対する判断DIは、前月差3.1ポイント低下の51.9と3ヶ月ぶりに低下した。全国、南関東より高く、近畿よりやや高い水準となった。



		全国	南関東	東海	近畿
16年	9月	43.1	41.1	41.1	42.3
	10月	45.5	44.4	46.6	44.5
	11月	48.0	47.8	47.4	47.4
	12月	47.8	48.3	47.5	49.0
17年	1月	47.9	46.6	49.1	49.4
	2月	46.9	45.1	48.8	47.3
	3月	45.8	45.7	46.8	47.0
	4月	47.2	46.1	48.8	47.4
	5月	47.6	46.9	49.1	48.8
	6月	48.3	47.5	49.6	50.0
	7月	48.6	48.8	50.6	50.5
	8月	48.4	49.2	49.5	49.5
	9月	49.6	51.2	50.5	50.2
	10月	49.3	50.2	50.2	49.1
	11月	52.8	53.2	53.5	53.2
	12月	53.2	54.4	55.0	54.3
18年	1月	49.0	49.4	51.9	50.6

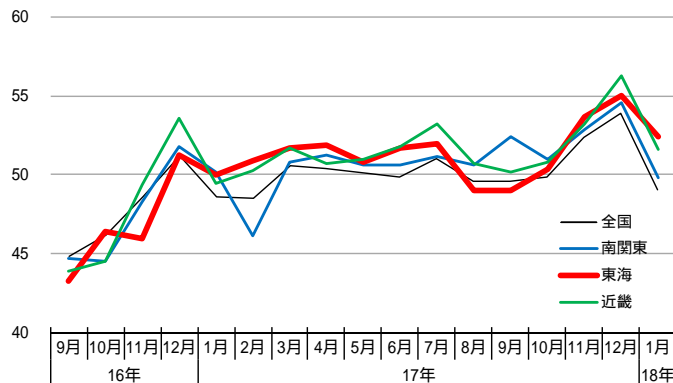
¹ 三大都市圏の都府県内訳は次の通り。東海 = 岐阜、静岡、愛知、三重、南関東 = 埼玉、千葉、東京、神奈川、近畿 = 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

(2) 原数値の動向

景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI(各分野計)は、前月差2.6ポイント低下の52.4と5ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を4ヶ月連続で上回った。全国、南関東より高く、近畿とほぼ同水準となった。

(DI) 現状判断DI(各分野計)

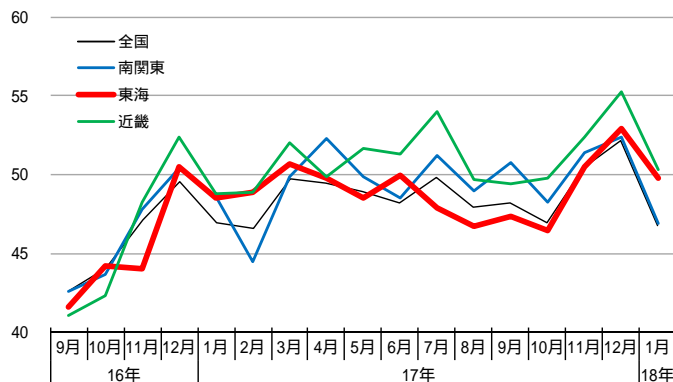


各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	9月	44.8	44.7	43.3	43.9
	10月	46.2	44.5	46.4	44.5
	11月	48.6	48.3	46.0	49.4
	12月	51.2	51.8	51.3	53.6
17年	1月	48.6	50.2	50.0	49.5
	2月	48.5	46.1	50.9	50.3
	3月	50.6	50.8	51.7	51.7
	4月	50.4	51.3	51.9	50.7
	5月	50.1	50.6	50.8	51.0
	6月	49.9	50.6	51.7	51.8
	7月	51.0	51.2	52.0	53.2
	8月	49.6	50.6	49.0	50.7
	9月	49.6	52.4	49.0	50.2
	10月	49.9	51.0	50.4	50.8
	11月	52.4	52.9	53.7	53.2
	12月	53.9	54.6	55.0	56.3
18年	1月	49.1	49.8	52.4	51.6

家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同3.1ポイント低下の49.8と3ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を3ヶ月ぶりに下回った。全国、南関東より高く、近畿とほぼ同水準となった。

(DI) 現状判断DI(家計動向関連)

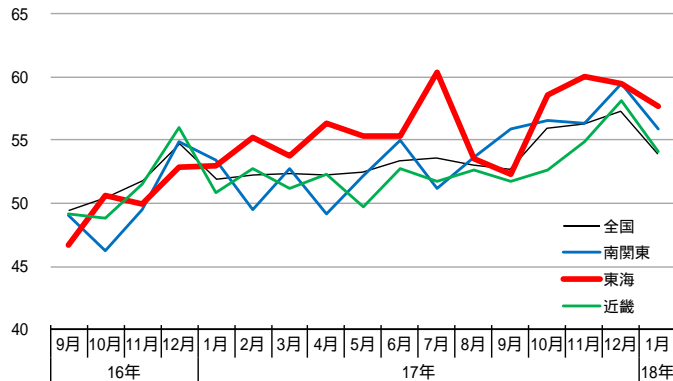


家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	9月	42.6	42.6	41.6	41.1
	10月	44.1	43.7	44.2	42.3
	11月	47.1	47.8	44.0	48.3
	12月	49.6	50.4	50.5	52.4
17年	1月	47.0	48.6	48.5	48.8
	2月	46.6	44.5	48.9	48.9
	3月	49.7	49.9	50.7	52.0
	4月	49.5	52.3	49.8	49.9
	5月	48.9	49.9	48.5	51.7
	6月	48.2	48.5	50.0	51.3
	7月	49.8	51.2	47.9	54.0
	8月	47.9	49.0	46.7	49.7
	9月	48.2	50.8	47.4	49.4
	10月	47.0	48.3	46.5	49.8
	11月	50.5	51.4	50.5	52.4
	12月	52.2	52.4	52.9	55.3
18年	1月	46.8	46.9	49.8	50.3

企業動向関連と雇用関連からなるDI²は、同1.8ポイント低下の57.7と2ヶ月連続で低下したが、横ばいを示す50を14ヶ月連続で上回った。全国、近畿より高く、南関東よりやや高い水準となっている。

(DI) 現状判断DI(企業動向・雇用関連)



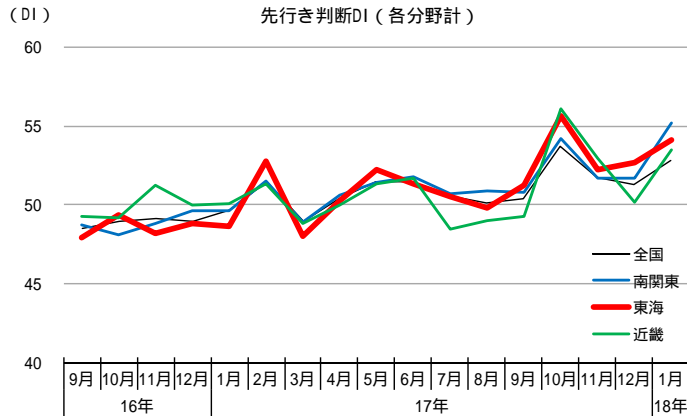
企業動向関連+雇用関連

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	9月	49.4	49.0	46.7	49.2
	10月	50.4	46.2	50.6	48.8
	11月	51.8	49.5	50.0	51.5
	12月	54.7	54.9	52.9	56.0
17年	1月	51.9	53.4	53.0	50.9
	2月	52.3	49.5	55.2	52.7
	3月	52.4	52.7	53.8	51.2
	4月	52.2	49.2	56.3	52.3
	5月	52.5	52.2	55.3	49.7
	6月	53.4	55.0	55.3	52.7
	7月	53.6	51.2	60.4	51.7
	8月	53.0	53.7	53.5	52.6
	9月	52.7	55.9	52.3	51.7
	10月	55.9	56.6	58.6	52.6
	11月	56.3	56.3	60.1	54.9
	12月	57.3	59.5	59.5	58.2
18年	1月	53.9	55.9	57.7	54.1

² 企業動向関連と雇用関連からなるDI(原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

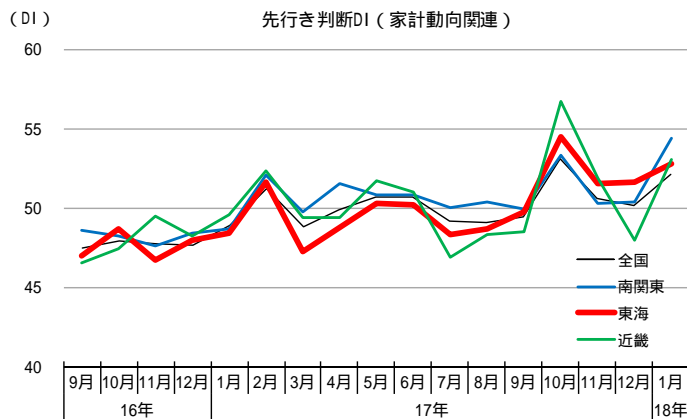
2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断D I（各分野計）は、前月差1.4ポイント上昇の54.1と2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を5ヶ月連続で上回った。全国よりやや高く、南関東よりやや低く、近畿とほぼ同水準となっている。



各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)
DI

		全国	南関東	東海	近畿
16年	9月	48.5	48.7	47.9	49.3
	10月	49.0	48.1	49.4	49.2
	11月	49.1	48.8	48.2	51.2
	12月	49.0	49.6	48.8	50.0
17年	1月	49.7	49.6	48.6	50.1
	2月	51.5	51.5	52.8	51.3
	3月	49.0	48.9	48.0	48.8
	4月	50.4	50.6	50.3	50.0
	5月	51.5	51.4	52.2	51.3
	6月	51.5	51.8	51.3	51.7
	7月	50.6	50.7	50.5	48.5
	8月	50.1	50.9	49.8	49.0
	9月	50.4	50.8	51.2	49.3
	10月	53.7	54.2	55.6	56.1
	11月	51.7	51.7	52.2	52.9
	12月	51.3	51.7	52.7	50.2
18年	1月	52.8	55.2	54.1	53.5

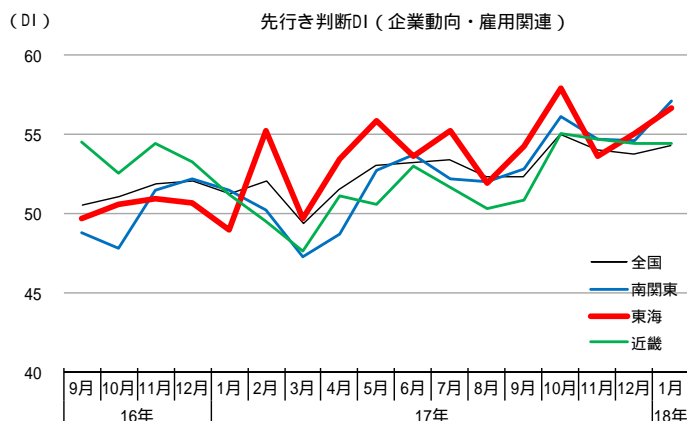
家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断D Iは、同1.2ポイント上昇の52.8と2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を4ヶ月連続で上回った。南関東よりやや低く、全国、近畿とほぼ同水準となっている。



家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)
DI

		全国	南関東	東海	近畿
16年	9月	47.5	48.6	47.0	46.5
	10月	47.9	48.2	48.7	47.4
	11月	47.7	47.6	46.7	49.5
	12月	47.6	48.4	48.0	48.2
17年	1月	48.9	48.7	48.4	49.6
	2月	51.2	52.1	51.6	52.3
	3月	48.8	49.7	47.2	49.4
	4月	49.9	51.5	48.8	49.4
	5月	50.7	50.8	50.3	51.7
	6月	50.7	50.8	50.2	51.0
	7月	49.2	50.0	48.3	46.9
	8月	49.1	50.4	48.7	48.3
	9月	49.4	49.9	49.7	48.5
	10月	53.1	53.3	54.5	56.7
	11月	50.6	50.3	51.5	51.9
	12月	50.1	50.4	51.6	48.0
18年	1月	52.1	54.4	52.8	53.0

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断D Iは、同1.6ポイント上昇の56.7と2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を10ヶ月連続で上回った。全国、近畿より高く、南関東とほぼ同水準となっている。

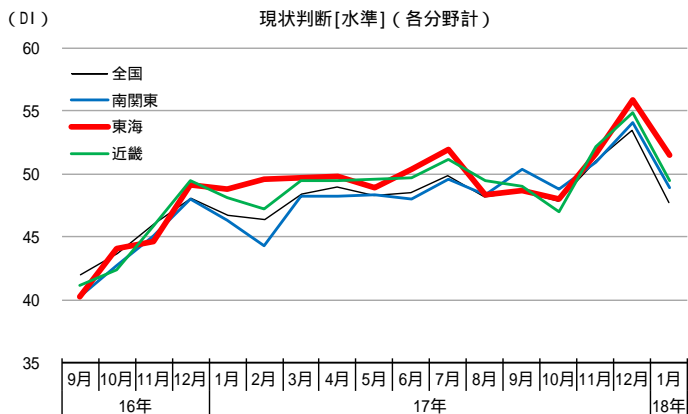


企業動向関連+雇用関連
DI

		全国	南関東	東海	近畿
16年	9月	50.6	48.8	49.7	54.5
	10月	51.1	47.8	50.6	52.6
	11月	51.9	51.5	51.0	54.4
	12月	52.1	52.2	50.7	53.3
17年	1月	51.3	51.5	49.0	51.2
	2月	52.1	50.2	55.2	49.5
	3月	49.4	47.3	49.7	47.7
	4月	51.5	48.7	53.5	51.1
	5月	53.1	52.7	55.9	50.6
	6月	53.2	53.7	53.6	53.0
	7月	53.4	52.2	55.2	51.7
	8月	52.3	52.0	51.9	50.3
	9月	52.3	52.8	54.3	50.9
	10月	55.0	56.1	57.9	55.1
	11月	54.0	54.7	53.6	54.7
	12月	53.8	54.6	55.1	54.4
18年	1月	54.3	57.1	56.7	54.4

景気の現状判断（水準）

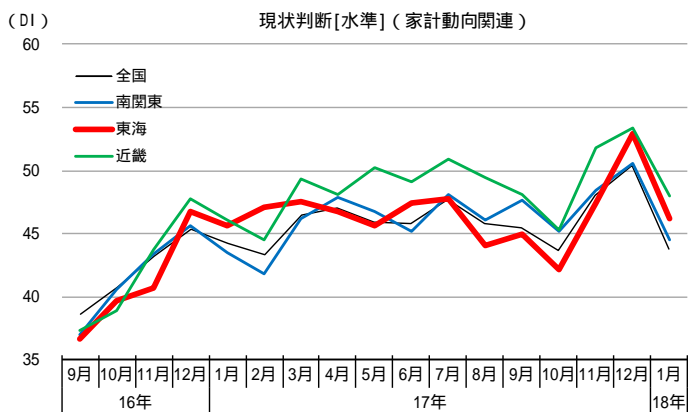
現在の景気的水準自体に対する判断DI（各分野計）は、前月差4.3ポイント低下の51.5と3ヶ月ぶりに低下したが、中立を示す50を3ヶ月連続で上回った。全国、南関東より高く、近畿よりやや高い水準となっている。



各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	9月	42.0	40.2	40.2	41.2
	10月	43.7	42.7	44.1	42.4
	11月	46.0	45.1	44.6	45.9
	12月	48.0	48.0	49.1	49.4
17年	1月	46.7	46.3	48.8	48.1
	2月	46.4	44.3	49.6	47.2
	3月	48.4	48.2	49.7	49.4
	4月	48.9	48.2	49.8	49.4
	5月	48.3	48.3	48.9	49.6
	6月	48.5	48.0	50.3	49.7
	7月	49.8	49.6	51.9	51.1
	8月	48.2	48.3	48.3	49.5
	9月	48.6	50.3	48.7	49.0
	10月	47.8	48.8	48.0	47.0
	11月	51.0	50.9	51.6	52.1
	12月	53.4	54.0	55.8	54.8
18年	1月	47.7	48.9	51.5	49.5

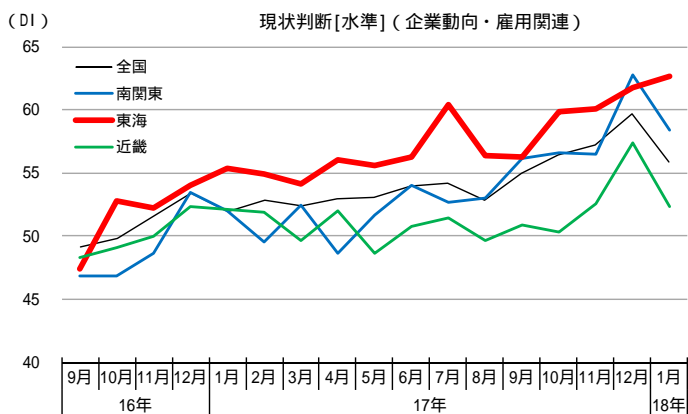
家計動向関連のウォッチャーによる景気的水準自体に対する判断DIは、同6.7ポイント低下の46.2と3ヶ月ぶりに低下し、中立を示す50を2ヶ月ぶりに下回った。全国より高く、南関東よりやや高く、近畿よりやや低い水準となっている。



家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	9月	38.6	37.0	36.6	37.3
	10月	40.7	40.6	39.7	38.9
	11月	43.2	43.4	40.7	43.7
	12月	45.4	45.6	46.8	47.8
17年	1月	44.2	43.5	45.6	46.1
	2月	43.3	41.8	47.1	44.5
	3月	46.5	46.2	47.5	49.3
	4月	47.0	47.9	46.8	48.1
	5月	45.9	46.7	45.6	50.2
	6月	45.8	45.2	47.4	49.1
	7月	47.7	48.1	47.8	50.9
	8月	45.8	46.1	44.0	49.4
	9月	45.5	47.6	45.0	48.1
	10月	43.7	45.2	42.2	45.3
	11月	48.0	48.4	47.4	51.8
	12月	50.4	50.6	52.9	53.4
18年	1月	43.8	44.5	46.2	48.0

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気的水準自体に対する判断DIは、同0.9ポイント上昇の62.7と4ヶ月連続で上昇し、中立を示す50を16ヶ月連続で上回った。全国、南関東、近畿より高い水準となっている。



企業動向関連+雇用関連

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	9月	49.1	46.8	47.4	48.3
	10月	49.8	46.9	52.8	49.1
	11月	51.6	48.7	52.2	50.0
	12月	53.4	53.5	54.0	52.4
17年	1月	52.0	52.0	55.4	52.1
	2月	52.9	49.5	54.9	51.9
	3月	52.4	52.5	54.1	49.7
	4月	53.0	48.7	56.0	52.0
	5月	53.1	51.7	55.6	48.6
	6月	54.0	54.0	56.3	50.8
	7月	54.2	52.7	60.4	51.5
	8月	52.9	53.0	56.4	49.7
	9月	55.0	56.2	56.3	50.9
	10月	56.4	56.6	59.9	50.3
	11月	57.2	56.5	60.1	52.6
	12月	59.7	62.8	61.8	57.4
18年	1月	55.9	58.4	62.7	52.4

2. ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(1) 景気の現状判断

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

○ : 良くなっている、 △ : やや良くなっている、 □ : 変わらない、 × : やや悪くなっている、 × : 悪くなっている

【家計動向関連】

- 今月は積雪についてのコメントが多く見られた。積雪にも関わらず販売は好調との声がある一方で、やはり消費にはマイナスとの声が多い。雪の影響もあって月末にかけて売上げが厳しくなったようだ。

百貨店(経営企画担当)	雪の影響等はあったが、富裕層を中心とした高額需要は引き続き高い。バレンタインデー商戦も好調に推移しており、特にインスタ映えする商品の動きが良い。
スーパー(店員)	雪による来客数の減少が懸念されたが、翌日には天候が回復して、客足は順調である。野菜価格が高騰しているが、買い控えもなく、売上も順調に増加している。
一般小売店[土産](経営者)	最大級の寒波に見舞われ、めったに降雪のない地域で2度も積雪があった。遠方からの観光客にはキャンセルがあり、天候が景気停滞に影響している。
コンビニ(店長)	寒波の影響で、来客数が減少している。
一般小売店[薬局](経営者)	年末年始の売出しは、宣伝効果もあって何とか売上を確保でき、景気もまあまあかと思っていたが、バーゲンセールが終わった1月中旬頃からは天候不順で、特に寒さと雪で客足が途絶えている。ここ数年でみても最悪である。
百貨店(販売担当)	正月は順調だったが、月末になるにつれ厳しくなり、ぎりぎり前年同月並みである。天候も悪く、バレンタインが近くなっても客の購買意欲は高まってこない。
旅行代理店(従業員)	天候不順、雪、氷点下になる日が多く、旅行を控える人が増える等マイナス要素が強い。来客数が減少しキャンセルも発生しており、取扱数や売上にも影響が出ている。
美顔美容室(経営者)	インフルエンザの流行や雪の影響で、多くのキャンセルがある。
× コンビニ(店長)	1月は雪の日が何回もあり、例年より気温も低く来客数が大幅に減少している。

- 低価格志向からの脱却、高額品消費の好調を指摘するコメントがある一方、高額品の販売不調、消費者の低価格志向を指摘する声もある。消費の2極化が進んでいるようだ。

百貨店(経理担当)	外食やレジャー等のサービス産業での消費拡大とともに、低価格志向から脱却の動きが感じられる。
その他専門店[貴金属](営業担当)	前年同月に比べて販売量が大幅に増えている。高額品も低価格品も売れている。
通信会社(営業担当)	高価格帯の製品が、相変わらず売れている。
百貨店(経理担当)	クリアランスセールを中心となる衣料品の売上が思ったほど伸びず、今まで下支えをしてきた宝飾品等の高額品も低調である。
スーパー(店員)	単価が低い商品を買いたい客が、非常に増加している。
旅行代理店(経営者)	飲食においては確実に低価格志向が続いている。ターミナル駅エリアは、大きなビルの飲食店でさえ平日の昼は開店当初のにぎわいがなく、コンビニや路上の弁当屋に行列ができています。大きなビルでも飲食店の収益は落ちており、開業2年目にして店舗の退店希望も出ている。
スーパー(販売担当)	競合店対策で安売りを続けており、安売りを止めると売行きも不振となる。節分やバレンタインデーの関連商品も売行きは今一つである。

【企業動向関連】

- 輸出や受注が引き続き好調だとするコメントがある一方で、1月以降受注が減ってきているとの声が複数見られるのは気になるところだ。

化学工業(営業)	中国向けの輸出需要が好調である。旧正月を控え、前倒し需要が多い。
鉄鋼業(経営者)	前年末以降、季節要因を除いても受注量、販売量共に2~3%増加している。
輸送用機械器具製造業(総務経理担当)	この3か月間、輸出が好調である。
その他非製造業[ソフト開発](経営者)	今月も順調に過ぎており忙しく終わりそうである。受注は順調で、競合先や取引先も忙しそうである。
電気機械器具製造業(経営者)	この半年ほどは、前年同期の販売量を10%ほど上回る状況が変わらずに続いている。
窯業・土石製品製造業(社員)	年末頃まで忙しいと言っていた取引先が、年明けには暇になってきたと話している。稼働率の高い取引先が少なくなっている。
金属製品製造業(経営者)	受注量が減少している。
一般機械器具製造業(営業担当)	1月に入ってから引き合いが激減し、受注もない状態となっている。

【雇用関連】

- 人手不足の状況が続いており、企業のコストアップにもつながっているようだ。

新聞社[求人広告](営業担当)	人手不足は相変わらずで、採用にかかる企業の経費も増加している。
職業安定所(所長)	ここ数か月間、採用ニーズはあるが人材確保に苦慮している状況に変化がない。

(注) 雇用関連のウォッチャーの回答上は、人手不足状態は雇用環境の改善と評価される。

(2) 景気の先行き判断

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

○	: 良くなる、	△	: やや良くなる、	□	: 変わらない、	×	: やや悪くなる、	×	: 悪くなる
---	---------	---	-----------	---	----------	---	-----------	---	--------

【家計動向関連】

- 春物商戦や年度替わりなど季節要因による改善を期待するコメントが多い。逆に言うと、季節要因以外にこれといった改善要因がないとも言える。

一般小売店[結納品](経営者)	季節が春に移り、足元より少しは良くなる。
一般小売店[書店](営業担当)	新年度向け受注の増加が期待される。
百貨店(業績管理担当)	気温の上昇に伴い、春物商材が動き出す。
コンビニ(エリア担当)	春先は出掛ける機会が増えて来客数の増加が見込める。直近の動きとしても、徐々に回復傾向が見受けられる。
一般レストラン(経営者)	これから新入学等のイベントがあり、良い方向に向かう。
旅行代理店(経営者)	足元は天候の影響でサービス業全体が悪いが、年度末ということもあり、予約状況からも徐々に良くなっていく。
旅行代理店(従業員)	雪の心配等で冬場は旅行を控え、春以降に計画するという客が多い。
通信会社(サービス担当)	引っ越しシーズンに伴って、光回線の新規申込みが増加してくる。
乗用車販売店(従業員)	年度末の決算期に向けて市場の盛り上がりを期待する。賃上げムードもあり、車の安全性能に対する客の関心も高まっているため、財布のひもがもう少し緩むことを期待している。
家電量販店(店員)	季節要因の他に売上をけん引できる要因がない。映像商品や白物家電の動きが顕著にならなければ、楽観視できない。

- 賃上げによる消費拡大に期待する声もある。

百貨店(経理担当)	春闘では大企業、中小企業共に大幅な賃上げが見込まれ、個人消費の拡大に一層の弾みがつく。
その他飲食[ワイン輸入](経営企画担当)	賃金の上昇が浸透してきており、景気が良いと感じる消費者が増えている。
一般小売店[和菓子](企画担当)	賃金が上昇し、しばらくは良い方向に向かうが、地政学的リスク等まだ心配な点もあり、景気が良くなるとまではいえない。
タクシー運転手	ガソリン等は相変わらず価格が高騰しているが、野菜等は解消が見込まれる。春闘で予想を上回るペースアップがあれば、景気も良くなるのではないかと期待している。

- これまで売上げ増が続いてきたコンビニであるが、先行きに厳しい見方も出てきている。

コンビニ(店長)	前年同期比で来客数は5%、売上は10%減少しており、特に良くなるような兆候はみられない。
コンビニ(総務担当)	業界では業績の低迷感が漂っている。フィットネスの兼業等、新業態へのチャレンジもあるが、コンビニが乱立する飽和状態を打破する材料となるかは、不透明である。
コンビニ(商品開発担当)	相変わらず来客数が回復せず、増加に転じるきっかけが見当たらない。セールやクジで客単価を上げている状態が今後も続く。

【企業動向関連】

- 好調な受注が続くとの見通しがある一方で、燃料価格の上昇などコストアップを懸念する声もある。

輸送用機械器具製造業(総務経理担当)	3月の受注量はこの2年間で最も多く、生産が間に合うかどうか心配なほどである。
化学工業(人事担当)	北朝鮮や中東等、海外のリスクはあるものの、国内では景気が悪くなる要因が見当たらない。春闘での賃上げが今まで以上のアップ率となる可能性もある。
一般機械器具製造業(経理担当)	受注量は高水準で推移している。
輸送用機械器具製造業(製造担当)	製品の注文数が減少するという話は聞かない。
輸送業(エリア担当)	軽油価格が前年比で約15円上昇し、苦しい状況は続くが、大手鉄鋼会社が円滑な輸送を確保するため、輸送運賃の値上げを受け入れるという明るい話もある。
化学工業(営業)	ナフサの値上がりにより、原料費のコストが上昇する。
輸送業(従業員)	原油価格がじわじわと高騰しており、物流業界や石油を原料とする産業への影響が懸念される。

【雇用関連】

- 年度末に向けて雇用情勢も逼迫度を増してくるようだ。

アウトソーシング企業(エリア担当)	年度末に向けて自動車生産台数は好調な推移が見込まれるが、労働者不足が大きな問題で、人材確保には苦戦している。
民間職業紹介機関(窓口担当)	求職者数は変わらないが、年度末に向けて求人数が増加してくることから、人材業界としては活発な上向きの動きが見込まれる。
民間職業紹介機関(営業担当)	4月1日入社を目指して、企業側は採用活動のスピードを上げる時期である。働く側でも、3月上旬までは転職に目を向ける人が増える。

(注) 雇用関連のウォッチャーの回答上は、人手不足状態は雇用環境の改善と評価される。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の3項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となるため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	(良い)	(やや良い)	(どちらともいえない)	(やや悪い)	(悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所)内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の4県が対象となっている。

調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。